

# 業務部速報

No. 40

発行 17. 12. 26

JR東労組 業務部

## 申11号「安全と命、サービスが低下するワンマン運転に反対する緊急申し入れ」第3回

**第2項** JR東日本管内の沿岸線区における八戸線、山田線、釜石線、大船渡線、大湊線、津軽線、五能線、男鹿線、羽越本線、石巻線、仙石線、常磐線、内房線、外房線、白新線、越後線、信越本線、鶴見線、東海道線、伊東線、横須賀線の津波に対する車両、設備、避難経路、訓練内容を各線区ごとに具体的に明らかにすること。

会社

車両搭載設備…避難梯子、メガホン、携帯ラジオ、非常灯が基本。一部で衛星携帯電話。設備…津波注意区間の始末端標。避難口(出口)の整備。津波注意区間全 140 駅に避難経路案内看板。タブレットに避難アプリ。訓練…各支社・職場で取り組んでいるが、全乗務員に対して津波に特化した訓練を行うのは難しい。

組合

- 車両搭載設備は津波線区と他線区でほとんど変わらない。東日本大震災の教訓が活かされていない。
- 避難口は一部を除いて踏切を指定しているだけ。タブレットを使っても場所も明確ではない。一部の出入り口は施錠されている。
- 自治体から避難経路について「JR から一方的に通告されるだけで相談はない」といった声が多く聞こえてきている。地域の理解を得られていない。
- 自治体等と合同で行う訓練に参加する乗務員は一握り。夜や雪を想定した訓練なども不十分。やれるだけの事をやりきっていない。

**会社が回答した対策は不備が多すぎる。全ての設備や案内を見直すべきだ！**

**2項議論で会社は我々の現地・職場実態に基づいた指摘に設備や避難経路、教育訓練それぞれ不十分さを認める!!! 会社が総点検することを確認!**

**第3項** 3月17日のダイヤ改正におけるワンマン運転の新規・拡大が盛り込まれている場合には、ダイヤ改正と切り離すこと。

**第1項、第2項の議論を踏まえ、会社は切り離すと回答を修正!**

3回に及ぶ交渉によって、会社は数々の津波対策についての不備を認めるものの、具体的な対策は示されませんでした。これでは、組合員とお客様の「命」を守ることができません! そのため、第1項と第2項は継続議論とし、ダイヤ改正とワンマン運転の新規実施と拡大については切り離すこととなりました。

今交渉の議論経過を踏まえ、職場から災害対策とワンマン運転の現状を検証するたたかいを強化していこう!